

研究主題

「多面的・多角的な視点を持ち、考えを深め合う道徳教育」

～聴き・話し・伝え合う活動を通して～

本庄市立本庄西中学校

1 研究主題の設定理由

道徳教育は、生徒が人間としての在り方を自覚し、人生をよりよく生きるために、その基盤となる道徳性を育成しようとするものである。本校には、「自分ならどうするか」を考えることが苦手な生徒が多い。そのため生徒一人一人が生活の中での道徳的な課題を解決する資質・能力を育むために、自分自身のこととして、多面的・多角的に考え、議論する「考え、議論する道徳」が必要であると考え。

このことを課題と捉えて学校研究主題とも関連付け、「ユニバーサルデザイン」の考えを授業に取り入れ、生徒全員が十分に考えられる授業づくりをすることを目指し、教育活動の充実を図るために、本主題を設定した。

2 研究の仮説

- (1) ねらいを明確にした発問をすることで、主題からはずれることなく考えを深めることができ、生徒の道徳性が育つであろう。〔授業の改善について〕
- (2) 各教科指導において「多面的・多角的に考える」ことを意識した授業づくりをすることで、道徳の授業においてもより自分自身のこととして考えを深めることができ、議論する力が身に付くであろう。〔教科横断的な取組〕
- (3) お互いの考えを議論することにより、コミュニケーション能力の向上を図ることができ、良好な人間関係を構築することで落ち着いた学級生活が送れるであろう。〔コミュニケーション能力の向上〕

3 研究の経過

時 期	内 容
4 月 15 日	○研究推進委員会 ・研究推進委員会の発足（今年度の取組について、研究の方向性の確認）
4 月 17 日	○校内研修会① ・今年度の取組についての確認 （道徳ノート、ワークシートの取り扱いについて、振り返りについて 教室・学年掲示について、ローテーション授業について） ・研究組織づくりについて （授業研究部・環境整備部・調査部の活動内容についての確認 部ごとに活動テーマの設定） ・道徳科についての基本的な理解（道徳教育推進教師からの提案）

5月19日	○校内研修会② ・指導者における講話「道徳科について・教材研究について」 講師：本庄市教育委員会学校教育課指導主事 亀田央葉 先生
7月7日	○校内研修会③ ・授業の進め方について
8月3日	○校内研修会④ ・一学期の振り返り ・二学期に向けての確認
9月7日	○校内研修会⑤ ・指導案検討会「言葉の向こうに」 講師：本庄市教育委員会学校教育課指導主事 亀田央葉 先生
10月29日 11月5日	○公開授業研修会（11月17日のプレ授業） 【公開授業】3年2、3組「命の大切さ」【豊かな人権感覚】 授業者：小澤健悟 教諭 指導者：埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事 山本直人 先生 北部教育事務所教育支援担当指導主事 芳賀一行 先生 本庄市教育委員会学校教育課指導主事 亀田央葉 先生
11月17日	○本庄市教育委員会委嘱授業研究会及び研究発表会（人権教育） 【公開授業】3年1組「命の大切さ」【豊かな人権感覚】 授業者：小澤健悟 教諭 指導者：本庄市教育委員会学校教育課指導主事 亀田央葉 先生
12月16日	○校内研修会⑥ ・指導案の作成について
1月～2月	○今年度の研究のまとめや来年度の計画

4 研究の内容

(1) 授業研究部の取組

ねらい：聴き・話し・伝え合う活動を行い、考えを深め合える授業を行う

① 指導案作成、授業研究会の実施

研修として、1人1本の指導案作成を行った。指導者の先生から指導案の書き方を指導して頂き、全員が同じ様式で作成できるように研修を行った。授業においては付箋やホワイトボードの活用、話し合い活動では「飛沫感染防止ボード」を活用した。作成した指導案は共有のフォルダに保存し、次年度以降にも活用できるように情報の共有を行った。「彩の国の道徳」の教材も年間指導計画に位置付けて、計画的に実施した。



付箋の活用



飛沫感染防止ボードを使っての話し合い



ホワイトボードの活用

② ローテーション授業の実施

2学期と3学期には、学年内でローテーション授業を行った。ローテーションを行うことで、教材研究が進み、教員間での相談も定期的の実施できた。担任外の教員も授業をすることで、お互いの授業を参観することができ、授業方法の研修も兼ねることができた。また、担任するクラスを外から見ることもでき、一人一人がどのような、学びをしているかに着目して参観した。

(2) 環境整備部の取組

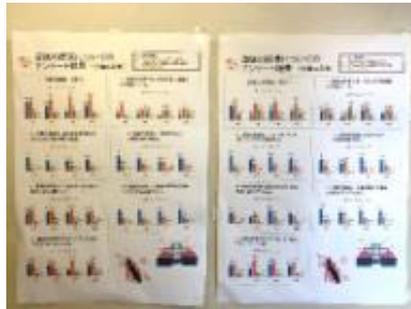
ねらい：授業の予告や振り返りができる掲示物を作成し、考えを深め合う道徳教育を推進する

① 全校掲示・学年掲示の工夫

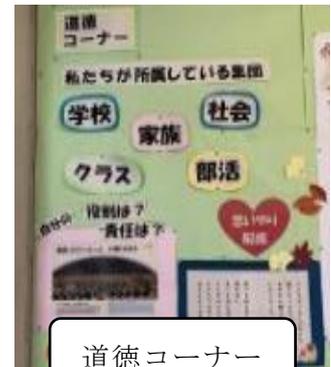
各学年の廊下には、各月の授業計画や授業の振り返りを掲示し、自分のクラス以外の振り返りも見られるようにした。2階渡り廊下には、全学年共通の道徳教育の掲示物や生徒アンケートの集計結果などを貼り、道徳への意識を高める取組を行った。



月間計画と振り返り



アンケート結果の掲示



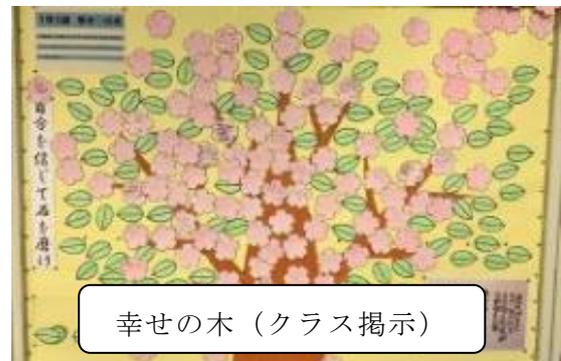
道徳コーナー

② 教室掲示の工夫

クラスには道徳コーナーを設置し、生徒の振り返りや授業内容のまとめなどを掲示することで、授業後にも振り返りを行えるようにした。また、毎月1回以上更新することで、教員側も事前から事後の活動への意識を高めた。また、「幸せの木」など、学級内での感謝の気持ちを伝える取組も行った。



教室の道徳コーナー



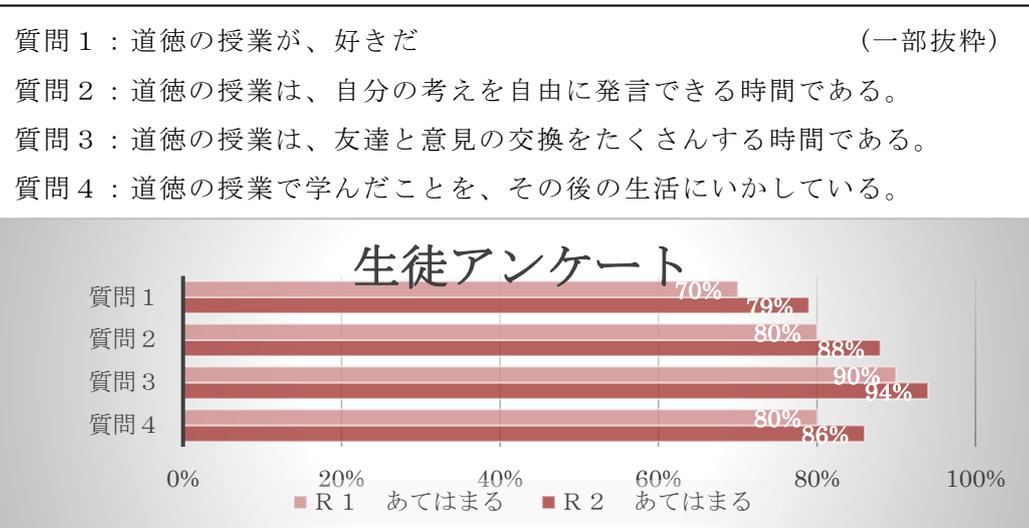
幸せの木 (クラス掲示)

(3) 調査部の取組

ねらい：アンケートの実施、集計、分析を行い、生徒および教員の実態を把握する

① 生徒アンケートの実施・分析

生徒の実態や変容を把握するために、道徳に関するアンケートを9月と12月に実施した。道徳の授業に関わる事項に加え、実践意欲の向上などを調査した。昨年度の12月と今年度の12月との比較は下のグラフのとおりである。



5 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・ 全校生徒のアンケートから、この1年で4つの項目において大幅な数値の向上が見られた。これは、毎週の授業の教材研究を積極的に行い、生徒にとって取り組みやすい授業が実施できた成果であると考えられる。また、お互いの考えを話し合うのが当たり前になったことで、話合いの環境がつけられ、「聴き・話し・伝え合う活動」に意欲的に取り組めた。
- ・ 全校で道徳科の時間割を揃えることで、全校で取り組むという意識がもてた。また、同じ時間に行うことで、教材研究の時にも声を掛け合う機会が増えた。
- ・ ローテーション授業を行うことで、1つの教材について、より深い教材研究ができ、発問の工夫に繋げることができた。
- ・ 発問とともに板書の工夫を行うことで、発問の意図を生徒が汲み取りやすくなり、主題に沿った発言ができるようになった。
- ・ 全ての教科でグループでの活動の方法を習慣づけることで、「聴き・話し・伝え合う活動」に取り組み、「自分が話すとき」と、「他の人の話を聴くとき」の切り替えができるようになり、規律ある態度が身に付いた。(12項目の「できる」「だいたいできる」の平均が96%)より効率良く、考えを深められるような話合いが実施できた。

(2) 課題

- ・ 授業の基本的な流れを共有することで、ローテーション授業を実施したときに生徒が戸惑わないようにしていく。
- ・ 来年度以降も「聴き・話し・伝え合う活動」やクラス・学年の掲示物の取組が継続できるように、道徳担当を中心に研究を進めていく。
- ・ 指導案や掲示物、教具などお互いに共有できるものは保存して活用していく。